

2.1 -Hotel d'activité Raymond Losserand



住所:	168 rue Raymond Losserand, 75015 Paris
物件種別:	商業及び芸術の混合利用
建築家:	Emmanuel SAADI(1960年?)
建築年:	2006年～2010年

事業主:Sagi
Emmanuel Saadi(建築家)、Campenon Bernard(建設)、
BECT(技師)
正味面積:7.958 m²

Emmanuel Saadi は、表舞台に出ることがなく、年齢を含む詳細なプロフィールが公表されておらず、その人物像はよくわかっていません。

プロジェクトの設計をするとき、彼は建物の美を優先に考えるのではなく、建設物の成熟に合わせて建物の美を考えます。彼は、プロジェクトの段階の一つにおける「引き金」の存在を強調しています。

本計画の目的は、事業活動にリースされる複数の空きスペースを4階層にわたって作ることによって280の仕事を生み出すために、旧発電所を複合活動センターに再生することです。1920年代に建設された既存の建物は鉄筋コンクリートとミルストーンのいわば産業大聖堂のようなものでした。その垂直構造を誇張するために、一連の付加物や装飾物を取り除きました。プロジェクトの構想はかなり単純なものです。既存の構造の後ろで、建物の元の機能を回復する光電池がガラス部分に含まれ、配電を行います。光電池は太陽エネルギーを直接、電気エネルギーに変換します。建物上に設置された45,000個の電池は年間約60,000 KWhを発生することになります。



発電のほかに、ガラスのファサードに含まれている電池は日よけの役目を果たし、光の流れ、外の景色、プライバシーの調整の働きをします。ガラスフレーム内への電池の配置は、既存の石工ミルストーンの写真をピクセル化した結果を基に行われます。ガラスの中に組み込まれた光電池と、その反射が光と戯れて、現代のステンドグラス・ファサードに変わる美的特質は、既存の建物と新しいファサードの間の関係性の方向付けに強く関与します。

公共の領域に光を供給するために、光電池の新しい「電気の妖精」に対する敬意の一つの形を表す2つの低消費器具を作りました。(シャガールの暗示)

テラスは、その表面のほぼ全体が開放されていて、木製デッキとホール、100人を収容することができるガラスと鉄鋼の20mの巨大な温室が配置され、会議、レセプション、イベント用に設計されています。ラベンダーが植えられているフィールドは内側と外側の両方のスペースの装飾になっています。

